

飛騨市まちづくりレシピ

まちづくりって特別なことじゃなく、みんなの暮らしがちょっと豊かになる活動。
飛騨市内で活動されているまちづくり団体を紹介していきます。
気になる活動があれば、気軽に参加してみませんか？

ヒダプラス
HIDAPLUS

石棒などの文化財を活用し 飛騨市・日本全国・世界を幸せに！

石棒クラブ



▲これが石棒！制作工程がわかる展示も



▲機材をセッティングし、本格的な撮影です



▲超レアな「飛騨みやがわ考古民俗館」

みなさんは「石棒」を知っていますか？それは、縄文時代に作られていた石でできた製品。祈りの道具では？と言われていますが、未だ謎の多い遺物です。その石棒が1074本も出土したのが、飛騨市の宮川町。

そんな貴重な遺跡の傍に立つ「飛騨みやがわ考古民俗館」は、年間30日しか開館しないとてもレアな博物館ですが、そこを舞台に石棒で考古民俗館や飛騨市に関わる「関係人口」を増やせないか？と活動しているのが「石棒クラブ」です。現在の中心メンバーは9人。東京など都会からの参加者も多く、未だ直接会ったことがないメンバーもいるとのことですが、SNSやオンラインでの定期的なミーティングで交流しながら活動をしています。

その活動は2019年3月にスタート。SNSに1074本の石棒を投稿していく「一日一石棒」から始まり、その撮影を手伝ってくれるボランティアを募ってイベントにしたり、いつもは見られないバックヤードツアーを開催したりと、多岐にわたってきました。しかしながら、立ち上げ翌年にはコロナ禍でリアルイベントが難しい状況が訪れます。

そこでオンラインツアーを企画し、収蔵庫まで余すことなく配信。参加者からの「現地に行きたい」「もっと見たい」というニーズに触れると、石棒の3Dデータ化を企画。これもボランティアスタッフを募って制作されました。「誰が何に使うんだ？」という声もあったそうですが、その後3Dデ

ータを活用して石棒キャンドルを製作する人が現れるなど、思ってもみなかった方向に広がっていくこととなりました。

メンバーの方々になぜ参加しているのかを伺うと「それぞれが、飛騨市、石棒、でやりたいことをやらせてもらえるのが楽しい」「石棒というおもしろいフィールドで自由に遊ばせてもらっている」という声が聞こえてきました。課題は共有しながらもその向き合い方は各々に委ねられているところが魅力のようです。

また、中心メンバーの市教育委員会文化振興課の三好清超さんが大きな役割を担っているようで、メンバーからは「考古学や文化財の知識が無くても、わかりやすくその魅力を語ってくれ、おもしろさ、奥深さを知った」と語る方が多く、三好さんの石棒愛や未知のものへの探求心に共感し、関わり始めた人も多いそう。

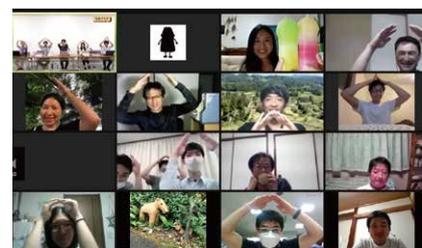
飛騨市が抱える課題に、得意な方法や、やりたいという自主的な思いで関わり、活動しているメンバー。まさに理想的な組織であり、関係人口のお手本のように、それぞれが楽しんでると口々に話してくださいました。

「石棒をはじめとした飛騨市の文化財の活用を通して、飛騨市だけではなく、全国、全世界の人に幸せを届けたい」と大きな夢を語ってくれた三好さん。縄文時代という遠い昔からの宝物を、現代のテクノロジーで楽しむ石棒クラブの活動はまだまだ進化を続けていきそうです。

基本情報

設立：2019年3月
活動場所：飛騨みやがわ考古民俗館
主な活動：石棒に関するイベントの企画、運営、石棒の3Dデータ化、SNSを活用したPRなど

▼バックヤードツアーで熱く語る三好さん！



▲オンラインで、みんなで石棒ポーズ！

飛騨市のまちづくり最新情報はこちら▶

<https://www.city.hida.gifu.jp/site/hidaplus/>

